

行政提案型協働事業実施計画書

行政課題	和光市自然環境マップの作成
協働事業名	和光市自然環境マップの作成
課題の現状認識	1 課題に対する現状認識 和光市は都市部にありながら自然環境に恵まれています。特に湧水は特徴的で、その周辺には貴重生物も多く、市民が身近な自然の大切さ、有用性についての認識を高めることが大切。 2 課題選択の理由 行政提案に沿い、和光・緑と湧き水の会（以下、当会と略記）のこれまでの環境調査などの経験を生かし、和光の自然環境についての多様な情報を分かり易く表示するマップ作成に寄与したい。
事業目的	1 解決する地域課題の内容 和光市は近年自然環境が変化しており、変化をとらえながら、身近な自然の現状を知り、親しみ、保全するための情報源が必要。 2 課題解決に対する市民ニーズ（課題として提起する根拠等） 身近にありながら見過し勝ちな、地形や地質と森や湧き水、生き物の関係など、市民が触れ合える自然についての資料が必要。当会のこれまでの観察会などでの経験から、小中学校での環境学習や地域学習、また、市民の日常的な散策などに使えるマップが有効。 3 その他
問題解決の手法	1 問題解決の方策 10数年前に和光の自然環境調査に加わり、また、26年度には協働事業として湧水環境調査を実施した。その結果を活用し、市内の多くの緑地、湧水、河川などについての生態系や地理・地質などについての情報を盛り込んだマップ作成が可能。市内の観察会や、学校での授業での経験を生かして、必要とされる情報の記載、マップの配布などの有効利用が可能。 2 問題解決の独自性及び先駆性 会では26年度協働事業で和光市湧水環境調査を行い、その報告書には、緑地、湧水、生態系などについての多くの調査結果が整理・記載されており、マップ作りの基本資料となる。また、当会は、市内のふれあいの森や樹林公園等で、保全活動を行っており、調査・観察結果を貴重動植物の保全に生かしてきた。貴重生物の情報と保全の調和を考慮した情報提供が行える。 3 想定される問題及び対策 単年度で和光市全域のマップを作成するためには、過去のデータの

	蓄積がないと不可能。当事業の実施年度には、これまでのデータに不足する分の実地調査を補足し、それらから、マップに適した情報の抽出、印刷可能なデジタルデータ化が必須であり、それを可能にする人材が重要。担当課からのマップの利用目的の提案、データ作成や印刷等での協力が必要。 4 その他
役割分担	1 提案団体が果たす役割 ①マップに盛り込む内容、基本構成の複数案の提案。②調査報告書などのからのデータの収集。③構成を詰める。④印刷用デジタル原稿の作成。⑤会では今までに、各地のガイドマップや小冊子等出版しているためそのノウハウが活用できる。⑥観察会などの経験を基にした必要とされる構成案の提案。⑦様々な調査やモニタリング1000調査などを通して蓄積がある貴重種の情報が提供できる。 2 市に期待する役割 マップの基本構成作成において、行政が必要とする内容、用途についての提案。デジタルデータ化する際の大容量データが使える環境の提供。掲載データの精査や、一般市民に役立つような情報を提供。
協働の必要性	1 協働の必要性 お互いの情報交換により、市民のニーズに合う内容の構築を進める。市民や学校などに役立てられるものにし、当会の観察会などでの利用とともに、公的に配布する手段など、有効に配布・利用するために必要。 2 協働による相乗効果 行政の情報と当会が行ってきた調査から得られた情報を共有することで、環境の現状把握が進み、環境基本計画に基づく環境行政などの実施において、市民との情報交換の資料となる。学校教育での利用や、市民の観察会などのレベルアップが期待できる。
個別事業の内容 (事業ごとに記入)	1 事業名 マップづくり全体を1事業とする。 基本構成の立案、資料収集、構成案の作成・決定、印刷用デジタルデータの作成、印刷、当面の配布を含む。 なお、基本構成の立案、および、構成案の作成に際しては、市民参加の観察会などと組み合わせた作成セミナーや、行政との打ち合わせ会などを複数回企画する。セミナーの参加者は、子供も含む一般市民40名程度。セミナー等の詳細は、初期のマップの内容・用途の検討会で、それに合った企画を策定する。 ・ 目的 ・ 成果 ・ 内容 ・ 実施日程 ・ 参加予定者 ・ 実施場所 ・ 予算額
事業の実施体制	1 人的体制 緑地等の補足的実地調査、マップの基本構成案作り、資料収集・整理、内容のデジタル化、印刷用原稿の作成など、様々な経験と得意分

	野を持つ会員がその特技を生かす場としていく。 実地調査：約10名、マップ基本構成案作り：約15名、資料収集・整理 デジタルデータ化：約8名、印刷用原稿作成：1名、補助1名。 2 提案する協働事業の特長（知識、経験、実績等） 当会は、湧き水と緑地マップ、和光樹林公園案内地図、新倉ふれあいの森ガイドマップ、大坂ふれあいの森ガイドマップ等を作成し、利用している。その他、市民新報新聞連載、冊子「和光の緑と湧き水」等の出版。和光市、埼玉県の環境賞、環境大臣賞等受賞。
年間スケジュール	（四半期ごとに取り組む内容を記載して下さい。） 4～6月：基本構成の立案、資料収集、 7～9月：資料収集、構成案の作成、 10～12月：構成案の決定、印刷用デジタルデータの作成、 1～3月印刷・出版、報告書作成
協働の成果	1 団体：これまでの市内の湧水緑地調査等の内容の活用・普及に役立つ。市と情報を共有できる。 2 行政：市民レベルの親しみやすいマップが期待できる。 3 地域：各地域の特徴的な自然環境が把握できる。市民の身近な自然と触れ合う散策や、学校での環境・地域学習に役立つ。
成果指標	（事業成果を計る指標を設定してください。） ・市民参加の観察会等での利用頻度（配布数等） ・学校等への配布数。 ・利用者の感想把握。 いずれも、マップ完成後、当該年度以降に継続的に行うこととなる。年度内の成果の評価は、完成したマップの内容の評価に止まる。
事業と関連する団体の特長及び活動実績	1 提案する協働事業に関連する知識、技術等（団体の特長） 当会は、過去十数年間、市内のふれあいの森や樹林公園等で、保全活動を行っており、調査・観察結果を貴重動植物の保全に生かしてきた。新倉ふれあいの森の管理運営は、市との協働事業であり、また、26年度協働事業で和光市湧水環境調査を行い、その報告書には、緑地、湧水、生態系などについての多くの調査結果をまとめて公表した。冊子「和光の緑と湧き水」やガイドマップなど出版。これらの活動に対し、和光市環境賞、埼玉県環境賞、環境大臣賞、日本自然保護協会・沼田眞賞、文理シナジー学会・学術賞などを受賞。 2 提案する協働事業に関連する活動実績 マップの内容の基本となる、1999-2001年度白子地区湧水地自然環境調査、和光市湧水現況調査に参加。平成26年度和光市湧水環境調査実施。 本マップ作成の参考となる、湧き水と緑地マップ、和光市・白子湧

	水ふれあいマップ、和光樹林公園案内地図、新倉ふれあいの森ガイドマップ、大坂ふれあいの森ガイドマップ等を作成し、利用している。
他団体とのネットワーク（協力、共催等）	和光自然環境を守る会、白子大坂ふれあいの森の会、和光市総合児童センター、児童館、自然保護協会、NPO法人自然観察指導員埼玉、和光市社会福祉協議会ボランティアセンター
事業の実施年度以降のスケジュール	当会は年間6～8回の市民参加の観察会を行っており、このマップを広め、活用し、レベルアップにつなげていく。和光市外部からの観察会の依頼も多く、市の特徴を示す資料とする。 学校での環境学習や地域学習への利用。学校への配布と、当会が授業を行う場合の資料として活用。 環境教育に関わる生涯学習課との協力を希望する。

※ A4サイズ5ページ以内で、できるだけわかりやすく、具体的に記載してください。